

D-2 班

グループ名： まいど！Oh！BANG！でございます

発表テーマ： キラキラ★サイクル 「自分ってイケてる！」

1. テーマ選定理由

(1) 大学の役割

持続的に自己を高めることができる学生を社会へ輩出するために主体性のある学生を育成する。このことを大学の役割と位置づけた。

(2) 大学の現状

目的が定まらないまま入学する学生や、自己発信や他者とのコミュニケーションが苦手な学生が増えている。また、不本意入学などによる勉学継続意思・モチベーションの低下がみられ、「主役は自分である」という意識に欠け、自身の価値を見出せない学生が多くみられる。

(3) このテーマを選んだ理由

D-2 グループでは、「自分の価値を見出してほしい」「自分の能力を最大限発揮して欲しい」「大学卒業後も自分を高め続けて欲しい」との思いから、自己肯定感を持ち、自身の強みを最大限発揮し、企業・社会に還元できる人材育成に着眼し、テーマを設定した。そして、「自分ってイケてる！」そう思える学生を多く輩出するためにできる事を考察した。

2. 問題点の深堀

現状の問題点を、学生と職員の 2 つの視点から分析したところ、学生は現状 5 つの問題に直面しているという結論に至った。

- 1、自身の価値を見出し、高めるきっかけがない。
- 2、自分を客観的に見る機会・ツールがない。
- 3、参加者意識がない。
- 4、本音を言う”場所”がない。
- 5、自分の強み・弱みがわからない。

3. 解決策の検討

2.で挙げられた問題点を解決すべく、『キラキラサイクル』と題したプログラムを提案する。キラキラサイクルは、下記の 4 つの過程を 1 年間で完了する。

<キラキラサイクル>

◆ 4 つの過程

- i) 自己研鑽：自身の資質向上に関する取り組み。学年進行にともない発展的な内容にする。
- ii) 行動計画：課外活動、学内で開催されるセミナーや学外のインターンシップ、長期休暇中のボランティア活動等、具体的な行動計画を立てる。
- iii) チャレンジ：行動計画を基に、様々なことにチャレンジする。

iv) 自己点検：自己診断ツールを活用して現状を認識するとともに、次年度の目標設定のきっかけとする。

◆自己診断ツール活用例

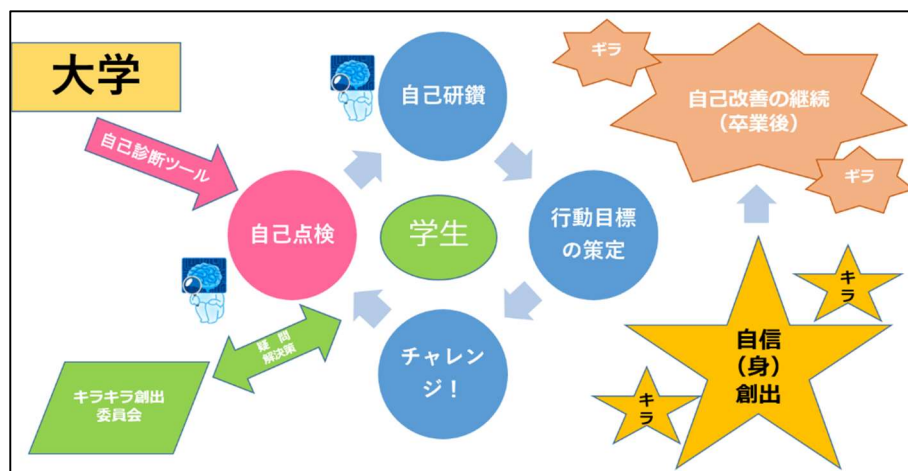
* AIによる性格診断：日記や振り返りツールでの頻出単語を分析し、性格を構成する要素をレーダーチャートに表すなどして、個人の好きなこと、得意なことなど、自身の特徴把握に役立てる。

* サジェスト機能：診断結果に基づき、適性がある、あるいは興味のある分野について、学内のイベントや課外活動団体などを提案してくれる。 等

◆大学が提供するもの

* 自己診断ツール

* キラキラ創出委員会：教員・学生・職員と、学部や部署横断的なメンバーで構成される委員会。学生からの質問・意見に対する回答や、プログラムの企画、効果測定などを行う。



4. 大学のイノベーションの提案

解決策として出した『キラキラサイクル』をまわすことで得られる効果。

- 1、自らの価値を改めて発見できる。
- 2、卒業時の満足度向上につながる。
- 3、自己肯定感を高める。
- 4、卒業生との『つながり』を創出。(雇用機会・寄付金の提供)
- 5、入学希望者の増加。

なかでも、期待している効果は、『社会人』になっても、このキラキラサイクルを自らまわすことである。それにより、社会人になっても自己管理ができ、活躍できる。

5. まとめ

グループ討議では、学生にとって大学は「とりあえず行く大学」ではなく、「目的を持って行く大学」であってほしいという意見が多く挙げられた。したがって、目的を自分で見つけて行動でき（主体性があり）、社会の一員となった後も学び続けることができる学生を輩出するための方策として『キラキラサイクル』を提案した。このサイクルを発展させるためには、教員・学生・職員からの自由な発想と、三者の結束が不可欠であることから、学生だけでなく、教員や職員にも「大学をより良くする主役は自分」という意識が根付き、大学全体で学生を育てるという風土が培われることを期待する。